

第 378 回研究報告会 (2025 年 6 月 30 日)

『天理教教典』の編纂と刊行をめぐる一〈復元〉教理形成史探究の一齣一

金子 昭

戦後 80 年の今年、中山正善 2 代真柱が「復元」を提唱されて 80 年目の節目の年である。「復元」における最重要課題は、教祖の教えられた通りに、天理教の教理を確立し、これを正統な教えとして教内外に打ち出すことであった。それが『天理教教典』の刊行となって現れたのは、昭和 24 年 (1949) 10 月 26 日であった。この 1 年前に「天理教教典草案」が『みちのとも』昭和 23 年 11 月号で全文発表された。

本報告では、まずはじめに「天理教教典草案」ができるまでの経緯やこの「草案」をめぐる教内の動きについて紹介し、次に「草案」から正式な『天理教教典』とする際の加筆修正について、両者間での特に大きな異同箇所を示して確認した。

そして、その上で、『天理教教典』刊行時において見られた教祖像の「揺れ」の問題、また現在でも取り上げられることの多い親神の神格の問題にも論及した。

前者の問題としては、『天理教教典』の初版本 (昭和 24 年) では「九十年に亙る道すがらこそ、万人のひながたである」と誌されていたため、『稿本天理教教祖伝』が昭和 31 年 (1956) に公刊されるまで、「ひながた」の年限について曖昧な理解が残っていたことを指摘した。また、後者の問題としては、『天理教教典』第 3 章「元の理」と第 4 章「天理王命」に見られる親神の神格の“差異”について言及し、第 3 章では人間創造の際における「元の神」としての親神のあり方、第 4 章では人間創造後における「実の神」としての親神のあり方として説明することが可能ではないかと、私見を述べた。

第 379 回研究報告会 (2025 年 7 月 9 日)

「南北戦争前後における米国系プロテスタント教会の海外布教戦略の変容—ブラジルを中心に—」

中西 光一

本発表では、南北戦争前後における米国系プロテスタント教会、特にメソジスト教会の海外布教戦略の変容について、ブラジルを主たる事例として検討した。まず、アンテベラム (戦争前) 期におけるダニエル・キダーの布教活動およびその著作に見られる宗教的・社会的認識を分析することで、当該期の布教戦略の特質を明らかにした。次に、ポストベラム (戦争後) 期におけるマーサ・ワッツの教育活動および書簡を分析し、女子教育の推進、奴隷制度への反対、ならびにカトリック批判の強化といった布教戦略上の変化を考察した。最後に、両者を比較することで、時代的背景に即した布教戦略

の違いとその変化要因を明らかにし、ブラジルにおけるプロテスタント布教の一側面を示して、本発表を締めくくった。発表後、キダーおよびワッツの人物像、民族史的視点、宣教対象の詳細な分析、ならびにブラジルにおけるカトリックとプロテスタントの布教戦略の違いに関する多角的なコメントや質問が寄せられ、それにより今後の課題が明確となった。

第 7 回 EASSSR (東アジア宗教科学学会) 年次大会で発表

堀内 みどり

標記大会が 7 月 18 日から 20 日にかけて、ソウルの高麗大学において開催され、堀内が出席、発表した。大会テーマは、「アジアの文脈における宗教と市民権：理論、実践、そして傾向 (Religion and Citizenship in the Asian Context: Theory, Practice, and Trends)」。開会講演は、ペンシルベニア大学の Ram A. Cnaan 教授が「現代社会思想における宗教の力と周縁化」と題して行った。

2 日間にわたって 94 の発表があり、堀内は特別セッション「適応と刷新：現代社会における東アジアの宗教組織の変革戦略」において「“この木いもめまつをまつわゆはんでな” (「おふでさき」7: 21) と現代の社会：天理教からのジェンダー平等提言」をテーマとして発題した。

20 日に行われた大会ツアーでは、ソウル市内の仏教系新宗教である円仏教の施設などを訪問。円仏教は、一円相「〇」を宇宙の真理として信仰、修行する宗教で、約 1 時間の祈祷と説教に参加した。21 日には「大巡真理会」の本部を訪問し、寺院群の巡拝及び教育施設・博物館を見学、約 1 時間の質疑応答に参加した。

「2025 年度天理大学アメリカス学会夏期定例研究会」で発表

中西 光一

7 月 26 日 (土)、2025 年度天理大学アメリカス学会夏期定例研究会が開催された。報告者の 1 人として、中西は「19 世紀アメリカ南部の奴隷制拡張戦略とその国外展開—ブラジルとの関係を手がかりに—」と題して発表した。本発表では、はじめに、米国の南部奴隷主階級が抱いていた「奴隷帝国主義」の構想と、それに基づくラテンアメリカ諸国との連携の実態に関する先行研究を整理した。続いて、南北戦争前後における対ブラジル奴隷制拡張戦略の変遷に着目し、南部連合の軍医ジェームズ・ガストンによる自由黒人のブラジル移住計画、および南部人移民による違法奴隷取引再開の企図について、関連史料をもとに考察した。最後に結論として、戦後の奴隷制拡張戦略は国家主導から個人主導へと移行しつつも、「奴隷帝国主義」の構想は形を変えて継続していたことを明らかにした。

グローバル天理

第 26 巻 第 9 号 (通巻 309 号)

2025 年 (令和 7 年) 9 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

おやさと研究所 (HP)



印刷 天理時報社

Printed in Japan